

世界史 アジアの宗教・思想史 確認問題集

全19問 / 解答・解説は後半

名前 _____

記事「世界史 アジアの宗教・思想史まとめ | 仏教・儒教・道教の流れ」を読んだあとに解く問題集です。答えを書いてから後半の解答・解説で確かめ、間違えた問題は解説にある記事の節を読み直してください。

第1部 一問一答

問いに当てはまる語句を答えなさい。

- 1 古代インドで、ヴェーダにもとづき、祭式を行う司祭を中心に発達した、特定の開祖をもたない宗教は何か。

- 2 人生は苦しみであり、その原因を見きわめて正しい修行を実践すれば苦しみから解放されると説いた仏教で、その正しい修行を何というか。

- 3 出家者が修行を通じて自らの悟りをめざし、スリランカから東南アジア大陸部に広がった仏教を何というか。

- 4 カニシカ王のころ、ギリシア風の彫刻の影響を受けて仏像が作られるようになったインド北西部の地方はどこか。

- 5 前2世紀から後2世紀ころにまとめられ、ヴァルナごとの義務や日々の生活の規範を定めて、長くヒンドゥー教徒の生活の基準となった法典は何か。

- 6 ヒンドゥー教とイスラームの垣根をこえて唯一の神への帰依を説き、のちにシク教を開いたナーナクに強い影響を与えた人物は誰か。

- 7 荀子の門下から出た法家の人物で、秦の丞相として焚書を建言したのは誰か。

- 8 漢代に発達した、經典の字句の意味を一つずつ正確に解き明かす儒学の学風を何というか。

- 9 401年に長安に迎えられ、大乘の經典を数多く漢訳した僧は誰か。

- 10 明末清初に顧炎武や黄宗羲が開き、確かな文献や証拠にもとづいて経典や歴史を研究した学風を何というか。

第2部 正誤問題

次の文ア～エのうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 11 インドの宗教について。

- ア ウパニシャッド哲学は、梵我一如によって輪廻から解脱できると説いた。
- イ ジャイナ教は、苦行と不殺生を徹底し、商人の間に広く支持された。
- ウ アショーク王は、カリング征服の悲惨さを悔やみ、ダルマにもとづく政治をめざした。
- エ ヒンドゥー教は、ヴァルダマーナが開いた宗教である。

- 12 中国の諸子百家について。

- ア 孟子は、性善説に立って王道政治を説いた。
- イ 荀子は、性悪説をとり、礼によって人を正すべきだと主張した。
- ウ 墨家は、無為自然を説き、仁や礼を人の作為として退けた。
- エ 法家は、法で厳しく治め、君主に権力を集中することを説いた。

- 13 中国の宗教について。

- ア 後漢末、張角の太平道の信者が184年に黄巾の乱を起こした。
- イ 北魏の寇謙之は、五斗米道（天師道）を改めて新天師道を開いた。
- ウ 会昌の廃仏は、北魏の太武帝が寇謙之の道教を重んじて行った。
- エ 金の王重陽は、儒教・仏教・道教の三教の調和を説いて全真教を開いた。

- 14 宋から明の儒学について。

- ア 宋学は北宋の周敦頤に始まり、南宋の朱熹が大成した。
- イ 朱熹は、五経よりも四書を重視して『四書集注』を著した。
- ウ 朱子学は、元で科挙の標準となった。
- エ 王守仁は、性即理を説き、事物の理をきわめる格物致知を重んじた。

第3部 年代の並べ替え

次のア～エを、古いものから年代順に並べなさい。

15 インドの宗教の出来事を年代順に並べなさい。

- ア グプタ朝が成立し、ヒンドゥー教が社会に根づいた。
- イ アーリヤ人が北西インドに入った。
- ウ マウリヤ朝のアショーカ王が仏教を保護した。
- エ ナーナクがシク教を開いた。

16 中国の宗教の出来事を年代順に並べなさい。

- ア 唐の武宗が会昌の廃仏を行った。
- イ 法顕が長安を出発してインドへ向かった。
- ウ 北魏の太武帝が仏教を弾圧した。
- エ 黄巾の乱が起きた。

17 儒学の学風の変化を年代順に並べなさい。

- ア 王守仁が知行合一を説いた。
- イ 孔穎達らが『五経正義』を完成させた。
- ウ 顧炎武らが考証学を開いた。
- エ 朱熹が朱子学を大成した。

第4部 論述問題

次の問いに答えなさい。字数は目安です。

18 仏教とジャイナ教が生まれた背景と、それぞれの教えの特色を、バラモン教との関係にふれながら130字程度で説明しなさい。

19 漢から清までの儒学の学風の変化について、それぞれの学風が生まれた理由にふれながら150字程度で説明しなさい。

世界史 アジアの宗教・思想史 確認問題集 解答・解説

第1部 一問一答

1 バラモン教

アーリヤ人がガンジス川流域へ広がるにつれ、バラモンを最上位とするヴァルナの考え方が固まりました。仏教やジャイナ教は、このバラモンの権威を批判して生まれました。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／インドの古代宗教

2 八正道

仏教を開いたガウタマ＝シッダールタは、ヴァルナによる差別も認めませんでした。苦行と不殺生を徹底したジャイナ教と区別して覚えます。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／仏教とジャイナ教の成立

3 上座部仏教

大乘仏教の側からは「小乗」と呼ばれましたが、これは大乘側からの呼び名です。ビルマのパガン朝やタイのスコータイ朝が受け入れました。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／仏教の分かれ道、東南アジア・チベットへの広がり

4 ガンダーラ地方

カニシカ王はクシャーナ朝の王で、仏教を保護しました。この時期は大乘仏教の形成期にあたります。アショーク王（マウリヤ朝）と取りちがえないようにします。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／仏教の分かれ道（王朝の表）

5 『マヌ法典』

ヒンドゥー教は、バラモン教にインド各地の民間信仰や習俗が結びついた宗教で、特定の開祖はいません。グプタ朝のころに人々の生活に深く根づきました。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／ヒンドゥー教の定着

6 カビール

カビールはカーストの差別や偶像崇拝を批判しました。ナーナクが開いたシク教も、偶像崇拝とカーストの差別を否定し、パンジャーブ地方を中心に広がりました。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／シク教の成立

7 李斯

前213年、李斯の建言で実用書を除く書物が焼かれ（焚書）、翌年には始皇帝を批判した学者たちが穴に埋められました（坑儒）。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／秦・漢

8 訓詁学

後漢の鄭玄が大家として知られ、唐の『五経正義』が集大成となりました。宋代には、字句の解釈にとどまることへの批判から宋学がおこりました。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／秦・漢、宋～清

9 鳩摩羅什

魏晉南北朝時代、華北を支配した五胡の君主たちは西域から来た僧を重んじました。4世紀前半に洛陽に来た仏図澄も、華北で布教して多くの寺を建てました。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／魏晉南北朝～唐

10 考証学

陽明学などの議論が空理空論に流れたことへの反省から生まれ、清代に学問の主流となりました。銭大昕は歴史の考証ですぐれた成果を上げました。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／宋～清

第2部 正誤問題

11 エ

ヒンドゥー教に特定の開祖はいません。ヴァルダマーナはジャイナ教の開祖です。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／インド、入試で狙われるポイント

12 ウ

無為自然を説いたのは老子・荘子の道家です。墨家は兼愛と非攻を唱え、儒家の愛を差別的な愛だと批判しました。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／諸子百家（学派の表）

13 ウ

会昌の廃仏は、845年に道教を重んじた唐の武宗が行った仏教弾圧です。北魏の太武帝は446年から仏教を弾圧しました。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／魏晉南北朝～唐（廃仏の表）

14 エ

性即理と格物致知は朱子学です。王守仁（王陽明）は心即理・知行合一・致良知を説き、実践を重んじました。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／宋～清、比べて覚える

第3部 年代の並べ替え

15 イ→ウ→ア→エ

アーリヤ人の進入（前1500年ころ）→アショーク王（前3世紀）→グプタ朝の成立（320年）→シク教（15世紀末～16世紀初め）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

16 エ→イ→ウ→ア

黄巾の乱（184年）→法顕の出発（399年）→太武帝の廃仏（446年～）→会昌の廃仏（845年）の順です。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／魏晉南北朝～唐

17 イ→エ→ア→ウ

『五経正義』(唐・653年)→朱子学(南宋・12世紀)→陽明学(明・16世紀初め)→考証学(明末清初)の順です。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／宋～清(学風の表)

第4部 論述問題

- 18 解答例：ガンジス川流域で商業や都市が発達し、国々が統合されていく変動の中で、ヴェーダの祭式とバラモンの権威を批判する思想家が現れた。ガウタマ＝シッダールタは八正道による解脱を説いて仏教を開き、ヴァルダマーナは苦行と不殺生を説いてジャイナ教を開いた。両者ともヴァルナの差別を認めなかった。

採点のポイント：①商業・都市の発達と国々の統合という背景、②ヴェーダの祭式とバラモンの権威への批判、③仏教の開祖と八正道、④ジャイナ教の開祖と苦行・不殺生、⑤ヴァルナの差別の否定、が入っているか。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／仏教とジャイナ教の成立、論述で使える要点

- 19 解答例：漢から唐までは經典の字句を正確に解釈する訓詁学が中心だった。宋では、字句の解釈にとどまることへの批判から、仏教・道教の影響も受けて宇宙と人間を理論的に説く宋学がおこり、朱熹が性即理を説いて朱子学を大成した。明では公認の学問となった朱子学が形式化し、王守仁が心即理・知行合一を唱えた。明末清初には空理空論への反省から、顧炎武らが文献にもとづく考証学を開いた。

採点のポイント：①訓詁学(漢～唐)、②訓詁学への批判と仏教・道教の影響から宋学・朱子学(朱熹、性即理)、③朱子学の形式化と陽明学(王守仁、心即理・知行合一)、④空理空論への反省と考証学(顧炎武)、が入っているか。

記事の該当箇所：地域・時代ごとに詳しく見る／宋～清、論述で使える要点